

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	74200	駅周辺土地区画整理事業費		担当課	基盤整備部 駅周辺整備課		内線	2313
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	1	計画的な土地利用をめざして	
	款	7	土木費		分野	1	土地利用	
	項	4	都市計画費		基本施策	1	住みよい生活環境の実現と地域全体の秩序ある発展を図る	
	目	2	土地区画整理費		施策	2	市街化区域の土地利用	
実施計画事業	高山駅周辺土地区画整理事業、高山駅周辺駐車場等整備事業							
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます。 ・高山駅西地区に建設予定の複合施設(総合交流センター・多目的広場・駐車場)については、市民の議論を深めるため一時計画を休止し、事業内容の再検討を行います。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民、観光客を含めた高山駅周辺を利用するすべての人	受益者数	
	どういう状態にしたいのか(意図)	高山駅周辺において都市計画道路や駅前広場などの公共施設の整備、商業・業務施設の拠点的な整備、良好な住環境の整備など飛驒の玄関口としてふさわしい拠点の形成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	都市計画道路(花里本母線・西之一色花岡線・花里牧ヶ洞線)約1.2km、区画道路(JRアンダーパス含む)約1.4km、駅前広場(駅東約4,100㎡、駅西約3,400㎡)他を整備する。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	JRとの交渉・協議の増 総合交流センターの計画を一時休止し、検討委員会を実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 宅地供給面積		㎡	目標値	3,456	10,579	856	2,291
			実績値	3,456	10,579	856	-
算出根拠等	仮換地使用収益開始通知		達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 宅地利用面積÷宅地供給面積		%	目標値	83	85	87	90
			実績値	83	85	87	-
算出根拠等	仮換地使用収益開始通知		達成率(%)	100	100	100	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 受益者1件当たり(円)	(A/B)		目標値	10,881	6,015	3,082	5,359
			実績値	94,235	93,822	93,212	93,200
算出根拠等			達成率(%)				

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			
	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)	(A) 1,025,376	564,367	287,264	499,500
受益者負担(使用料・負担金等)	0	0	0	0
その他特定財源(国・県支出金・起債等)	231,615	205,952	8,690	264,000
一般財源	793,761	358,415	278,574	235,500

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	総合計画に位置づけられ、市街地中心部の都市機能の向上、飛驒の玄関口としてふさわしい拠点の形成は政策的重要性が高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	市街地の中心、飛驒の玄関口として、都市計画道路、区画道路(JRアンダーパス含む)、駅前広場などの公共施設整備はニーズが多い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	市民、観光客を含めた高山駅周辺を利用するすべての人に効果がおよぶ。また、飛驒の玄関口としてふさわしい拠点の形成は様々な業種への間接的効果が高い。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	計画どおりに土地区画整理事業を進めている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	土地区画整理事業は高山駅周辺整備における手法として最適である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	早期完成を目指して、計画している工程およびコストで事業を実施できるよう関係機関との協議を進めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	早期完成を目指して、計画している工程およびコストで事業を実施できるよう関係機関との協議を進めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	事業効果、波及効果から判断して、コストは概ね適正であるが、着大事業であるためコスト削減を目指す余地がある。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	引き続きコスト削減に努めながら、事業完了に向けて早急に事業を進める必要がある。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		14.0 / 20.0	100点換算 → 70 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	事業の早期完成を目指して、計画している工程およびコストで事業を実施できるよう関係機関との協議を進める。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、事業の早期完成を目指し、関係機関との協議を進めながら引き続き実施する必要があるとの指摘をしており、こうした取り組みを継続する必要がある。 ・総合交流センターについて市民の合意形成が課題となっているが、検討委員会における議論の結果を踏まえて、できるだけ早期に結論を出し市民に示す必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	287,264	207,671	△ 79,593	211,344	211,344
国庫支出金	8,690	56,030	47,340	55,700	55,700
県支出金					
起債					
その他	254,700	144,800	△ 109,900	114,800	114,800
一般財源	23,874	6,841	△ 17,033	40,844	40,844

予算要求の概要	補償積算委託、事業用地整備工事、移転補償に係る経費
要求額増減理由	事業進捗状況に伴う減
事業実施の課題	・高山駅周辺土地区画整理事業の完成のために、駅舎・自由通路・駅前広場について、JRと事業合意に至ることが最重要課題である。 ・総合交流センター検討委員会の最終報告がまだ提出されておらず、今後の動向が未定である。

財務部査定の考え方	積算内容を精査
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	74250	土地区画整理推進事務費		担当課	基盤整備部 駅周辺整備課		内線	2313
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	1	計画的な土地利用をめざして	
	款	7	土木費		分野	1	土地利用	
	項	4	都市計画費		基本施策	1	住みよい生活環境の実現と地域全体の秩序ある発展を図る	
	目	2	土地区画整理費		施策	2	市街化区域の土地利用	
実施計画事業	高山駅周辺土地区画整理事業、高山駅周辺駐車場等整備事業							
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます。 ・高山駅西地区に建設予定の複合施設(総合交流センター・多目的広場・駐車場)については、市民の議論を深めるため一時計画を休止し、事業内容の再検討を行います。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民、観光客を含めた高山駅周辺を利用するすべての人	受益者数	
	どういう状態にしたいのか(意図)	高山駅周辺土地区画整理事業の推進を図る。 【】は高山駅周辺土地区画整理事業。 【高山駅周辺において都市計画道路や駅前広場などの公共施設の整備、商業・業務施設の拠点的な整備、良好な住環境の整備など飛驒の玄関口としてふさわしい拠点の形成を図る。】		
概要	事業の実施手法(手段)	土地区画整理事業の事務、土地区画整理審議会、まちづくり協議会、及び総合交流センター検討委員会の開催。 【都市計画道路(花里本母線・西之一色花岡線・花里ヶケ洞線)約1.2km、区画道路(JRアンダーバス含む)約1.4km、駅前広場(駅東約4,100㎡、駅西約3,400㎡)他を整備する。】		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	総合交流センターの計画を一時休止し、検討委員会を実施。 【JRとの交渉・協議の増】		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	審議会、協議会の開催回数	回	目標値	2	2	2	2
			実績値	2	4	2	-
算出根拠等	開催実績		達成率(%)	100	200	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	総合交流センター検討委員会の開催回数	回	目標値	0	0	8	0
			実績値	0	0	8	-
算出根拠等	開催実績		達成率(%)			100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	土地区画整理事業進捗率	%	目標値	67	70	71	73
			実績値	67	70	71	-
算出根拠等	事業費ベース進捗率		達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	総合交流センター検討委員会の提言書	%	目標値	0	0	100	0
			実績値	0	0	100	-
算出根拠等	提言書の市長提出		達成率(%)			100	-

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21	H22	H23	H24
	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	実施計画額
	歳出(千円)	(A)	332	325	506	500
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		0	0	0	0
	一般財源		332	325	506	500
コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画
			目標値	実績値		
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	4	3	5	5
			受益者	市民(4月1日現在)	(B)	94,235
算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	【総合計画に位置づけられ、市街地中心部の都市機能の向上、飛驒の玄関口としてふさわしい拠点の形成は政策的重要性が高い。】	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	【市街地の中心、飛驒の玄関口として、都市計画道路、区画道路(JRアンダーバス含む)、駅前広場などの公共施設整備はニーズが多い。】	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	【市民、観光客を含めた高山駅周辺を利用するすべての人に効果がおよぶ。また、飛驒の玄関口としてふさわしい拠点の形成は様々な業種への間接的効果が高い。】	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	【計画どおりに土地区画整理事業を進めている。】	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	【土地区画整理事業は高山駅周辺整備における手法として最適である。】	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	【早期完成を目指して、計画している工程およびコストで事業を実施できるよう関係機関との協議を進めている。】	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	【早期完成を目指して、計画している工程およびコストで事業を実施できるよう関係機関との協議を進めている。】	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	【事業効果、波及効果から判断して、コストは概ね適正であるが、著大事業であるためコスト削減を目指す余地がある。】	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	【引き続きコスト削減に努めながら、事業完了に向けて早急に事業を進める必要がある。】	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計			14.0 / 20.0	100点換算	70 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	【事業の早期完成を目指して、計画している工程およびコストで事業を実施できるよう関係機関との協議を進める。】				
総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	506	944	438	506	506
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	506	944	438	506	506
予算要求の概要	・土地区画整理審議会、土地区画整理評価委員会、高山駅周辺地区まちづくり協議会を開催する経費。				
要求額増減理由	・自由通路・駅前広場の都市計画、基本計画等の作成に伴い駅周辺地区まちづくり協議会の充実を図り、開催回数を増やすため。				
事業実施の課題	・高山駅周辺土地区画整理事業の完成のために、駅舎・自由通路・駅前広場について、JRと事業合意に至ることが最重要課題である。 ・総合交流センター検討委員会の最終報告がまだ提出されておらず、今後の動向が未定である。				
財務部査定の考え方	積算内容を精査し、前年並み事業費とする				
市長査定の考え方	財務部査定のとおりに				